

# 東金市都市計画審議会会議録

日 時 令和2年9月28日(月) 午前10時00分から午前11時30分まで  
場 所 東金市役所 5階 会議室  
出席者

【委員】 倉林 眞砂斗会長 (城西国際大学観光学部教授)  
日色 真帆委員 (東洋大学理工学部教授)  
藤井 敬宏委員 (日本大学理工学部教授)  
増田 祐子委員 (建築士 千葉工業大学・日本大学非常勤講師)  
小倉 治夫委員 (東金市議会議長)  
上野 高志委員 (東金市議会副議長)  
石田 明委員 (東金市議会総務常任委員長)  
相京 邦彦委員 (東金市議会文教厚生常任委員長)  
佐竹 真知子委員 (東金市議会建設経済常任委員長)  
笹生 健司委員 (千葉県山武地域振興事務所長)  
秋元 仁委員 (千葉県山武土木事務所長)  
中村 喜和委員 (山武郡市広域行政組合消防長)  
土濃塚 雅代委員 (公募委員)  
(以上13名)

【事務局】 鹿間市長・岡澤都市建設部長  
[都市整備課] 馬場課長・松崎主幹・有働副主幹兼計画係長・林主任主事

## 議 案

①東金市第2次都市計画マスタープランの地域別構想(素案)について

## 議 事

馬場課長の司会進行により開会する。

倉林会長、鹿間市長の挨拶の後、人事異動により変更となった委員と事務局の紹介を行う。

委員17名のうち半数以上の13名が出席しており、東金市都市計画審議会条例(以下、条例という。)第5条第2項の規定を満足しているため、審議会が成立していることを報告する。

議事進行にあたり、条例第5条第1項の規定により、会長に会議の議長をお願いする。

倉林会長より、議事録署名人が選出され増田委員と土濃塚委員が指名される。

議事 東金市第2次都市計画マスタープランの地域別構想(素案)について

【倉林会長】 それでは、【議事】東金市第2次都市計画マスタープランの地域別構想(素案)についてでございますが、こちらにつきまして事務局よりご説明の方をお願いいたします。

【事務局】 ≪説明：林主任主事≫

【倉林会長】 これまで審議をしていただいております全体構想の素案を振り返り、それを踏まえた地域別構想の素案、中央部地域、北西部地域、南東部地域の3地域ごとに地域別構想素案につきまして、今事務局よりご説明をしていただきました。  
それでは、この内容につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、委員の皆様、

よろしく願いいたします。

【相京委員】 大変コンパクトと言ったら変ですけれども、きちんとまとまっているなということで大変すばらしいものかなと思います。ただ1点だけ、ちょっと細かな皆さんのご意見が出る前に確認をしたいんですが、北西部地域のところ、3ページですけれども、先日も新聞報道等で、圏央道と接する場所といますか、ここにスマートインター云々という記事が出ておりました。この地域づくり方針図の中にもスマートインターチェンジの整備推進ということが入っているわけですけれども、新聞によるともっと具体的に出ているようでございますので、それについて最初にご説明をしていただければと思うんですが、いかがでしょうか。

【倉林会長】 それでは、この件につきまして事務局の方から補足も兼ねたご説明をお願いできますか。では、お願いいたします。

【事務局】 ただ今のご質問でございますが、全体構想（素案）の中で、みのりの郷東金や九十九里町の海の駅など、人やモノ、情報が交差する交流拠点、産業拠点といたしまして、その流れを活用し、その情報拠点をさらに発展させるための産業交流軸を位置付けてございます。また、本日ご説明させていただきました地域別構想における地域別の現況でも説明させていただきましたように、北西部地域につきましては少子高齢化が他と比べても進んでいるということもございまして、市全体の活性化とともに、地域の活性化の面からも有効な取り組みの一つと考えてございます。

ただし、場所等につきましては、具体的に交差する場所ということではなくて、その周辺という形の中で今後場所等を検討していくような考えであります。

【相京委員】 ありがとうございます。具体的な場所じゃないというようなことで一つ理解できたんですが、そうしますと、この間の説明でも2025年に圏央道が全線開通するということが述べられておられましたけれども、そうすると、今回の計画の、今回は10年間ですが、計画の期間内ではオープンということで今準備を進めているというふうに理解してよろしいでしょうか。

【事務局】 まず、都市計画マスタープランでございますが、10年は総合計画の中で進めていくという中で、都市計画マスタープランというのは将来の方向性を示すものでございまして、この20年間で、今おっしゃられましたように、やるということではなくて、それに向けて検討を進めていきたいというふうに考えてございます。

【倉林会長】 それでは、ほかの委員の皆様、ご質問はいかがでしょうか。

【上野委員】 詳細な地域別の説明をありがとうございます。今、答弁の中で、都市計画マスタープランは将来の方向性を示すものということで、全体的な構想を理解しました。ありがとうございます。

その上で、1点、ちょっとお聞きしたいのが、将来の51,000人の人口を維持するためにこういう都市づくりの方向性であるという概略は理解できたんですけども、一つ大きなもので、地域間の公共交通と民間交通の役割みたいなものもあると思うんですが、今、循環バスとかデマンドタクシーとかやっていますけど、地域間の交通体系の方向性にもう少し触れておいてもいいんじゃないかなという気はちょっとしました。地域間を、例えば循環バスみたいな公共交通で結ぶような計画なのか、それともそうじゃないんだと。民間と協働しながら何か新しいものを作っていくのか、そういった大枠な方向性みたいなものはどうなっているのかというのを盛り込む余地はないのか、その辺をちょっとお伺いします。

【倉林会長】 ありがとうございます。それでは、地域間の交流等につきまして、事務局の方よりご説明をお願いいたします。

**【事務局】** ただ今、上野委員さんの方から、広域的な交通の方は何となく見えたんだけど、地域間の交通という形の中での在り方というんですか、その方向性がもう少し見えてくると、よりわかりやすいのではないかなというご意見だったかと思います。これにつきましては、市内の公共交通の方につきましては、東金市の総合交通計画というものがございます。こちらにつきましては、総計、都市マスと連動しながら、一緒に市全体的な交通の在り方を検討していく計画になってございますが、本来であれば、都市マスと同時期に改定がされて、ある一定の方向性を示していただければという部分で庁内調整はしておいたわけですが、今回のこういうコロナ禍という形の中では、その計画の部分は来年以降だという形で所管課の方からも話は聞いてございます。その辺を踏まえまして、私どもの方としましては、今、地域交通担当課の方から示されています地域交通全体の在り方というところの部分を再編をしながら、おのおの持っている役割分担というところを明確にしながらやっていきたいというところの部分の話が出てございます。私ども、土地利用側としましては、今回の中である一定の機能集積というのを東金駅周辺という形の中で少なくとも持たせ、にぎわいというところの部分を持たせ、また、地域の中では地域のコミュニティ拠点というのを今回の計画の中に入れさせていただきました。その中の交通については、基本、拠点間を連動させながらメインの交通をつくっていく、それにおのおの地域の中で地域のコミュニティ拠点の中に集まっていたくというのが一つの方向性として今、庁内で議論がされている内容でございます。

具体的にその部分まで踏み込んでというところの部分につきましては、総合交通計画との兼ね合いもございますので、なかなか表現が難しい部分もございますが、来期また、再度検討はしていきたいと思っています。

**【倉林会長】** 上野委員、よろしくお願いします。

**【上野委員】** ありがとうございます。多分そういう形で総合計画があつて、片や地域交通の計画があつてということで、ただ、にぎわいをつくったり、まちの人口を維持していくためには都市計画の中にある程度盛り込んでいかないと、都市計画ではないのかな、土地利用ではないのかなというふうな観点が必要かなと思ひまして質問させていただきました。

関連して、ちょっと純粹の都市計画ではそういう意味ではないのかもしれませんが、同じような観点から、東金の土地利用の位置づけとか、地域の特性とか、近隣の市町村の間に入って東金の特徴といいますか、どういうまちづくりなのかというのがいまいち、東金市が対象範囲だというのはお聞きしてそれは理解しているんですけど、当然東金市だけでは生きていけないわけで、近隣の市町村の間でどういう特性を出そうとしているのか、ざっくりとしたところでいいんですけど、東金の位置づけみたいな、どういうまちづくりをしようとしているのかというところを、本当に大枠なんですけど、そのイメージみたいなものがあればちょっと、これからつくっていくでも構わないんですけど、どうでしょうか。

**【倉林会長】** それでは、今の件につきまして事務局の方より少しご説明いただければと思います。

**【事務局】** 前回の都市計画審議会の中で、委員の皆様からもご指摘がありました。私ども、圏央道だとか、広域交通ネットワークの結節点という言葉がまず一つのポテンシャルかなと考えているんですけど、それだけではないというお話の中で、我々としては総合計画の「稼ぐ」という部分ということもございますので、まず我々としては産業地を形成いたしまして、その支援となるべく各種道路や高速道路、あるいは乗り継ぎ拠点等も含めまして交通体系というものを含めていかなければならないというふう

に考えてございます。そういったことに関しましては、当市だけということではできませんので、周辺の自治体だとか国や県との調整を深めまして交通連携を図っていききたいという考えでございます。

【上野委員】 ありがとうございます。ちょっと無理な質問かなというのがありますので、ありがとうございました。

最後にもう1点、災害対応のことについて、各地域別に災害に備える環境整備ということで出ているんですけども、できたらもう少し具体的に、国土強靱化計画というのも出ていると思うんですけども、そういった計画にのっとって東金市の地域別の特性もあると思うんですね。そういった防災に対する取り組みというのをもうちょっと具体的に、地域別の特性に沿った、そういった対策というのを少し盛り込んでいただけたらなというふうに思いますが、その辺についてもしお考えがあれば最後にお伺いします。

【倉林会長】 それでは、今の別の形でのご質問につきまして、事務局の方から何か現況でのお答えをお願いいたします。

【事務局】 地域別の防災対応ということでございまして、地域別という中では、北西部地域の方では土砂災害とか、南東地域、あるいは北東地域の河川沿いにつきましては河川の氾濫等を想定した中で示しているような考えではございます。もう少し、今は概要版ということでお示しさせていただいておりますので、本編の方にはもう少し地域性を出したものを出示していきたいと思っております。

【倉林会長】 上野委員、よろしいでしょうか。それでは、ほかの委員の皆さん、では、藤井委員、お願いいたします。

【藤井委員】 藤井です。少し交通の話も出たので、私の方からも少し話をさせていただければと思います。都市計画マスタープランというのは20年後とか、将来性のイメージといたるところで東金市を進めていこうという、最終的な方向性のイメージということで、その中で20年後の今の問題としてどう捉えるかというふうな考え方ももちろんある。これは以前都市計画審議会でバックキャスト型というふうな考え方でお話ししたんですが、将来20年後の姿に対してどういう形でまちづくりを進めるかという時間軸に基づいた計画を具体的に進めていかなければいけない。そういったところが分野別の地域づくり計画の項目立ての中に上がってくる。ただし、その中でもこの項目の5年後なのか、10年後なのか、15年後、そういったものが、時間軸がそれぞれ異なる。こういったものをどう位置づけていくかというのが見えてこない、逆に今、交通というのは、今困っている方たちのための対応をどうすべきかといった、フォアキャスト型といいますか、今ある手段を活用しながらどうそれに将来性に近づいていくかというアプローチを取る方向なものですから、今、委員の方がご指摘のように、確かに交通のことを都市マスの中の最終形に入れる、住む方にイコールになるので、そしてさらに交通といった都市の持っているまちづくりの基本行政の中に交通を入れなければいけないはずなんです、人の移動そのものに直近型のアプローチになるので、なかなかマスタープランにはなじみにくいかな、そういったところは別立てという形で総合交通計画という形で、逆にここは5年ごとのスパンで常に考えていく。そのときに都市計画マスタープランと言われている時間軸の都市の、大体これぐらいの目標値という予定のものを総合交通計画に投げかけられることによって、その時点での東金市における公共交通をどこまで立ち上げていく、あるいは変更していくのかといったようなことを見せていかなくちゃいけない。そういうことになるので、基本的には理念といった部分のところでは交通の骨格軸といったものを

示す、これに限定されてしまうのかなという気がいたします。その中で、東金市の方で立地適正化計画、いわゆるコンパクトシティネットワーク、これが含まれているのか、検討しているのか、あるいはあまり考えないのか、これによって大分違ってきて、私の方に情報が今はないものですから、どういう状況かわからないんですが、拠点とといったものを集約する、集約した拠点間にどう交通をつなげるかといったときに、中心性を持っている拠点とか集落とか、あるいは集落の中でも地域別集落のようなところをどう最終的にはつなぐのかというようなイメージの骨格軸は、ある意味そういう拠点集約といったものが煮詰まってくるのであれば、それは再構築ができてくるだろうという気はします。その辺のところはまだ弱いのであれば、現状のところではなかなか記述しにくいかなと。

例えば2ページのところで、こちらの中央地域のところの黄色の枠で入っている中の3番目に、JR3駅を活用した居住の推進、こんなものが出てくるんですが、JR3駅という格好で言うと、東金、福俵、それから求名ですか、そういったところの3駅の居住の推進という、立地適正化というような居住誘導区域といったものをイメージしているのかなという気はするんですが、下の個別の分野別を見てみると、3. 快適に暮らせる住宅地形成、抜けているのか、あるいはこれはまだ計画がないから加えられていないのかわからないんですが、求名駅だけの周辺計画、ここしか上がってきていない。そういった面では、やはり地域整備をJR3駅を拠点性をもたせてやるのであれば、ある意味分野別でもしっかり上げていって、例えばそういった結節点強化となるような駅を活用した市街地形成だとか、そういったものを示した上で、そこにどういったような交通を将来的につなげるかとか、そういった方向性を見せていかないと、なかなかわかりにくいかなという気はします。

最後、もう1点だけなんですけど、4ページ、南東部の地域の中で、ここの中では都市マスですので、将来イメージということで、あまり制度上の実施レベルの話をここで言っても本当はいけないんですが、田園といったようなところを、田園空間を活用した暮らしやすさ、活力あるというキーワードが出てきたので、例えば東金市では用途地域、こういったところを田園住居のような形、新たな用途地域を追加されたものも含めた形の中で、ある意味農地だとか、そういった要素といったようなものを利用するような仕組みの、こういった中に都市計画的な地域別の取り組みという形で考えていこうとされているのかどうか。そういったところはある意味活用の幅を広げることでもあるので、戦略的に農地を活用していくようなイメージを踏み込んで、そういったものも豊かな田園といったものを利用した一つの戦略になるのかなと思いましたので、それは特にお答えいただかなくても、そういったお考えがあるのかどうか、今後ご検討いただけたらいいかなと思います。以上でございます。

**【倉林会長】** 藤井委員、ありがとうございます。今の、特に前半の集約した拠点間のつなぎ、リンクをどういうビジョンを今構想されているかというような点につきましては、事務局の方、いかがでしょうか。では、お願いします。

**【事務局】** 今お話ししていただきましたとおり、拠点形成の中では、まず中心部の一定の集積ということと、それぞれの地域におきまして、今想定しているというか、我々の方で考えている中では、各公民館といった各地区ごとの中心性を持たせていって、そこと中心部を結びたいというような交通体系を考えていますということで庁内の方では調整させていただいております。

それと、立地適正化計画の導入につきましては、明確にやっていきたいと思いますということではなくて、それも含めた中で一定の集積を図るには当然有効な一つだというふう

には認識しておりますので、それなりの検討は進めていかなければならないということで考えております。

それともう1点、田園住居地域の話でございましたが、こちらも念頭にはあるんですけども、南東部地域につきましては、優良農地が広がる地帯であって、都市計画の中の開発・保全という部分では、優良農地を保全していくべきところなのかなというふうな考えもございますので、田園住居地域につきましては、都市部、あるいは中心部の市街地形成の中の一つとして考えていただければと考えております。以上でございます。

**【倉林会長】** 藤井委員、お願いいたします。

**【藤井委員】** ありがとうございます。あともう一つ、公共交通会議の方にも、私、かかわらせていただいているので、その中で私が質問させていただいたことをちょっとお話しさせていただきますが、今、千葉県の方では公共交通の計画を作るのが、基本的には単独市、これが今までだったんですが、千葉県の中では館山市と南房総市、これが一つの地域の公共交通をつくり上げるということを始めました。それに関連する質問を県の担当者がいらっしゃったので、お話を伺ったんですが、東金の場合には東金線を含めた大綱から成東までといった横軸の話と、それから九十九里といった海への交通、こういった地域性がある。そういったときに県としてサポートできる方向性はどういうものがあるのかというお話を伺ったんですが、そうしたときには、横軸といったところではそれぞれの市が独立して地域の持っている公共交通をきちんと考える、これが大事だと。ただし、広域連携が必要なので、そこは調整をする。

もう一つは、将来的には今、公共交通網形成計画という言い方をしていますが、これが6月から少し方向性が変わってくるということで、地域公共交通計画というふうに変わります。これはある意味枠を決めて、交通事業者でなかなか対応できないところは、そこはいろんな福祉関係であるとか、あるいは医療関係であるとか、あるいは住民の方であるとか、いろんな方が地域の中で力を合わせようと、そういう活動を行政の方で計画づくりに組み込みましょうという話なんですけど、その計画を作るに当たって、東金は九十九里とある意味連携できる方向性が少しあるとすればあるかなといったようなことを千葉県の担当者もお話をされていました。それはあくまでも位置づけ的なものの活用を考えた場合の一つの見方ということなんですけど、そういった面では今回の構想道路として表されている道路軸とか、そういったものはかなり九十九里と連携していかないといけないのかと思いますので、ある意味、九十九里自体の生活づくりといったものとうまくリンクしながら、ネットワークの全体像をどうやって考えるのかといったようなことも東金市が動かないと九十九里も動かないというような位置づけだと思っていますので、ぜひ事務局として頑張っていただきたいなと思います。以上です。

**【倉林会長】** 藤井委員、ありがとうございます。この点について、特に何かございますでしょうか。それでは、事務局からお願いいたします。

**【事務局】** 藤井委員から、交通の在り方という形の中で、市独自性というところの部分もあるんですけども、周辺地域との連携を見ながらというようなお話の提言をいただいたというふうに理解しております。今回、私ども、都市計画マスタープランを策定するに当たりましては、周辺の自治体の方々とも事前に説明をしながら、私どもの計画として取り組める部分については極力調整するというようなお話向きも今しております、現実的に今、八街市さんは私どもと同じく並行して作ってございますので、そういった調整もさせていただいてございます。今回の都市マスタープランについては、お話

がありましたように、高速道路を含めて私ども単独だけではなくて、地域間の連携、あるいは国・県の支援等をいろいろ受けながら、相互連携を図っていくというところの視点で進めていきたいというふうに考えてございます。交通につきましては、直接的な部分は私どもの主管課ではございませんですけども、庁内でそういったご意見も含めて今後の計画づくりの中で私どもも一緒に参画をしながら、よりよい計画づくりを進めていかせていただければと考えています。よろしくをお願いします。

【倉林会長】 ありがとうございます。藤井委員もよろしいでしょうか。

ほかの委員の皆様、石田委員、よろしくお願いいたします。

【石田委員】 今皆様が言っている広域連携みたいなもの、当然私もそのとおりでと思うんですね。マスタープランの中に東金市を優先したまちをつくらうとしているのか、計画の中に、例えばE T Cの高速のインターチェンジの整備、九十九里の広域とつながり、当然私もそうだと思うんですよ。4ページの中に真亀川の、2級河川だから県の方ですよ。この土手を整備するというのが、東金市の独断でできるのか、そういった計画が入っているわけですよ。結局、私がいつも言っているのは、農地を優先していく、これも虫食い状態になっているのが東金市のまちですよ、農業ですよ。川の排水整備事業が整っていないのに一言も書かれていないわけですよ。いつも言うんだけど、合併浄化槽を推進していくのに当たって、市町村の、地区のインフラ整備、川の整備もされていない状況の中に合併浄化槽を推進、これ、年間365日、水が垂れているわけです。そういった整備もされていないのにきれいなまちがつかれるのかという話なんですよ。だから、私も言っているのは、こういう構想的なものはすごく素晴らしいと思います。これは理想であって、これがすべてできればいいんだけど、その中の内容で、私らは当事者でありますので、田舎の、田舎と言ったらおかしいけど、農業の関係ですので、現状でも、この間のちょっとした夜中に雨、3時半ごろですか、豪雨がありましたね。ああいう状況でも既に集落の周りの排水がいっぱいになっている状態で、新しい、優良な農地をつくっていかうかという考えがあれば、当然排水整備事業をやらなければならない。

インフラ整備もそうです。今やっている九十九里からの避難道路、広域連携でやっていかなきゃならない話だからです。公共交通だってそうだと思うんです。ただその辺のところを盛り込んだ中で進めていかないと、いいまちには当然ならない。東金市だけで固まった、すり鉢状態の中でまちをつくるのか。今、内容を見ると圏央道を利用した中にも出ていますよね。そうすると、東金のジャンクション、あそこは八街市と山武市とすぐ隣り合わせで、東金の端ですね、申し訳ないけど。そういったことを地域連携でやっていかないと非常にまちづくりというのは難しいのかなと。どれだけできるかわかりませんが、今計画しているところだって植草といって山武市の隣り合わせのまちですよ。全然そういったところを連携しないで思いだけで計画されていると、当然地域、山武郡一体の広域連携、国の方もそうでしょう。すべてが今広域でやれというような、補助対象もそうだよ。そういったところを優先した中で地域連携の事務局が他市町村と進めている中も同時進行でしているのか、その点だけ聞きたいのと、今私が言ったインフラ整備をどう進めていくのかということをお聞きしたい。

【倉林会長】 ありがとうございます。それでは、今の石田委員のご質問につきまして、事務局の方から説明をお願いできればと思います。

【事務局】 まず、1点目の真亀川の土手の整備というところでございますが、ご指摘のとおり、我々が直接的なことはできないと考えてございます。こちらに記載してある土手の整

備というものは、東金アリーナを中心として土手を整備して、例えばランニングロードにするだとか、そういうふうにあリーナの交流拠点を高めるということを想定しておりまして、県の調整というか、お願いだとかというのは進めながらやっていきたいと考えている取り組みでございます。

それと、排水整備の件でございますが、こちら南東部地域の分野別の地域方針づくりの中に土地利用、市街地整備の4)に記載してございます、農道・水路等の管理と多面的機能の維持という中で想定はしております。こちらの方は農政課の方が主管となりますが、都市計画マスタープランの策定に当たりましては、農政の方でどういう取り組みをやるのかということも確認しながら記載しておるところでございます。排水整備についても農政課の方では意識はしているということでございます。

それともう1点が、合併浄化槽の推進。こちらにつきましては、同じく資料4ページ、南東部地域の真ん中、都市基盤施設整備の3)の中の取り組みの2番目、公共用水域の水質保全というところの中で、南東部地域につきましては下水対策課の方でやっている農業集落排水の合併浄化槽の推進という、こちらの方を想定して記載してございます。

また、地域連携との同時進行が必要でないかというご指摘でございますが、地域連携だけを優先的に進めているということではなくて、庁内各部署、関係するところがございまして、都市整備課としてやれることというよりも庁内各部署でやっていくことの方が多くございまして、全体的にバランスを取りながら進めていくという考えでございます。

- 【石田委員】 管理、推進をしていくと言っているんだけど、今の現状で満足しているんですか。補修と管理だけで間に合っているんですか。
- 【事務局】 確かにこちらの方、管理と維持という形で記載してございますので、こちらの表現については再度検討させていただきたいと思っております。
- 【石田委員】 内容はわかりました。私はいつも言うんだけど、基盤整備事業というのを考えているのか。今、国庫補助で非常に国の方の補助金が出る状況にあって、この計画の中にそれは入っていないよね。入ってるの。
- 【事務局】 そちらの大規模圃場の件につきましても、各課ヒアリングの中で、農政課の取り組みの方で出しまして、担い手育成と農業基盤整備の取り組みという中で、今現在、農政課の方ではまずは担い手育成が必要かと、それとつなげて農業基盤整備の取り組みは検討しているというふう聞いております。
- 【石田委員】 担い手育成って、議論する場所じゃないから申し訳ないんだけど、今そういう答弁があったから言うんだけど、担い手といたって、農家を担う人はいないよ、食べられないんだから。これはあなたたちが考える問題じゃなくて国が考える問題だ。今の農業政策の中で農家は食べられませんよ、間違いなく。担い手をいくら見つけたって駄目なの、それは。例えば、これだけの基盤整備事業をやって、10町歩、20町歩やったら食べていけますよという可能性が出てくればいいんだけど、今はそういう状況下じゃないじゃないですか。だから、私なんか言うのは、担い手をつくるんだったら食べていくことの計画の下で担い手を育てていかないと、私、農業委員会へいたことがありましたが、新しい方々に補助金を出したりして、機械代だとか、補助金を出しますけども、ほとんどがやめちゃった状態ですよ。なぜかといったら、補助金がいくら出ますから担い手になってくださいと担いでも、やっても食べられないんです。だから、そういったことも総合的に考えていかないと非常に難しいところがある。国の方でもいろんな状況をやっていますけど、今の価格設定じゃとても食べられません

から、共稼ぎになっていく。今言っている工業団地を設定したり、働く場所をつくることに対しても、東金市は多分兼業農家でないと食べられませんよ、現状は。20町歩、30町歩、50町歩やる方がいますけど、これは雇用の連携で非常に難しいと思いますけどね。一部家庭だけではできる状態ではありませんので、非常に難しい状況が続いていますので、今のインフラ整備の川の整備事業だって、基盤整備事業だってやらないから、企業さんも来てくれません。国は農家の跡に企業を誘致すればいいんだと言うけど、整備も整っていないところに絶対企業さんは来ませんよ。それと、20町歩、30町歩やっている方は、条件のいいところだけお借りして、悪いところは切り捨てているような状況が続いていますので、やはりその辺のところを考えた中で南東のあの地区は政策の中でつくっていかないと、非常に無理が見えてきますので。例えば今言ったような、九十九里さんから連携を取ったので滝沢の手前にスマートインターをつくるというのであれば、避難道路を国の補助金をもらいながらインフラの道路整備をした中でつくって、まちづくりを新たに考えると、そこを優先していくことがもう少し見えてくれば、構想の中にももう少し進んだ構想ができるんじゃないかということも少しも考えてください。ぜひ広域の連携を進めた中で東金のまちづくりをしていただければなという思いです。ただ、これは意見でありますので、答弁は結構です。

【倉林会長】 石田委員、ありがとうございます。いろんな事項の優先順位とつながり関係というのは、またこれからの検討の中に反映をしていただければというふうに思います。ほかの委員の方、いかがでしょう。日色委員、お願いします。

【日色委員】 一つ、教えていただきたいところがありまして、3つの地域分けについてなんですけど、北西部のところを見ますと、北西部の一番南の方ですね。福俵駅に近いところまでが北西部として入っていますが、このゾーン分けというのは妥当なんでしょうか。何となく中心部と比べると、ちょうど北西部の一番南のところには公民館とか、かなり福俵駅のすぐそばです。字の関係でそういうグループなのかもしれないんですけど、ちょっと性格として濃い緑の中に薄い緑のものが入っていますけど、これはいろんな兼ね合いかもしれませんけれども、ちょっと教えていただければありがたいです。

【倉林会長】 それでは、区分け、区分につきまして、事務局の説明をお願いします。

【事務局】 地域区分の考え方ということでございますが、まず、考え方といたしましては、全体構想でお示ししております市街地、里山、田園といった土地の利用のものをまず1番に考えてございます。ただし、全体計画の中の里山ゾーンのお話もありましたように、田園というものが含まれてございます。今回、地域別構想の中での地域の設定といたしましては、このゾーンを意識、基本としながらも、地域別構想ではどこで何をやっていくのかということを示す中で、今後、少子高齢化の中で持続可能なまちをつかっていくためには、やはりどうしても地域のコミュニティというものが欠かせないという考えがございますので、原則として字界により設定していくという考えでございます。

それと、今ご指摘がございました一番南側の方につきましても、今現在の土地利用だとか、道路だとか、そういったものの関係からも、中心というよりもやはり、中心部ということではなくて地域という形の中で集積を図っていくべきところと考えてございます。以上でございます。

【倉林会長】 字界をということについてだと思んですが、日色委員からご質問はございますか。

【日色委員】 今一番最後におっしゃられた、公民館が駅に近かった理由は、要は北西部の中でのということですか。今、中心地域としてというお話をちらっとおっしゃられたんですけど。

【事務局】 北西部の図面の右手に書いてあるところの話かなと思います。

- 【日色委員】 北西部地域の一番下のところの辺りの話です。
- 【事務局】 こちらの方も同じような考えでございます。こちらの公民館というところは中心の方じゃなくて、こちらの印につきましても、中心部として一番市街地というような形で将来の都市計画ではなくて、北西部、地域コミュニティ、田舎というか、地域の方のコミュニティを図るべき場所だというふうに考えてございます。
- 【倉林会長】 日色委員、よろしいでしょうか。  
それでは、ほかの委員の方、では、佐竹委員、よろしくお願いします。
- 【佐竹委員】 1点、お伺いいたします。今回、地域コミュニティ拠点というのは、今、現状にしている公民館ですね。こうしたものを、既存ストックを活用して新たな拠点としてのコミュニティという拠点とされるわけなんですけれども、このところを新たに持続可能な公共交通のネットワークの形成と結びつけて、新たな移動手段の導入の検討というのは、公共交通、今現在あるデマンドタクシーとか、地域のコミュニティのバス、これを再編した中でコミュニティを結ぶという理解でよろしいのでしょうか。  
あと、もう1点、移動しやすい道路ネットワークの充実というところで、構想道路の整備の検討って、それぞれの地域に入っているわけなんですけれども、この構想道路の整備の検討、これをもう少しお聞かせ願えればと思います。
- 【倉林会長】 それでは、今の佐竹委員のご質問につきまして、事務局の方からご説明をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
- 【事務局】 公共交通についてでございますが、地域振興課とヒアリング等でお話ししている中では、まずは地域の拠点と中心を結ぶこと。けれども、地域に来ていただく足というのも当然考えなければいけないというふうに考えておまして、地域から直接、地域の中のあらゆるところから直接中心に行きやすいということではなくて、地域の中心に来ていただけるようなことを考えて、そこから中心部に移動しやすいというような交通を考えていくべきだろうというような、そういうものをつくっていかなくちゃいけないんだろうという話はしています。  
それと、構想道路の考え方ということでよろしいですか。構想道路につきましては、全体構想の中でそれぞれ3本の軸というものを想定してございます。軸というものが、人やモノ、情報が交錯するような各拠点間を連結して、より有効にそれぞれの価値を高めるような考えでございまして、それには当然移動手段というか、広域的な道路の整備というものもセットで考えていかなければいけないかなというような考えで構想道路の検討をしております。以上でございます。
- 【倉林会長】 佐竹委員、よろしいでしょうか。  
ほかに。それでは、増田委員、お願いいたします。
- 【増田委員】 資料を拝見していて、東金って、中心もあって、北を見れば山があって、南の方を見れば田園があちこちにあるって、なかなかいいところだなと改めて資料を見させていただいて思ったわけなんですけれども、この中で、ちょっと細かいことにはなってしまうんですが、既存のコミュニティ、公民館の既存ストックを活用し、コミュニティ拠点の創出をするというのが、この中でおそらく8カ所書かれていると思います。今の公民館の数ということだと思いますけれども、既に今地域の中にあるのに、今現在拠点になっていないということをもう一度ちゃんと考えなきゃいけないんじゃないかなと。既になってもいいはずなのに、なかなかないということを改善しないと、20年後に向けて、あるいはそれまでの短期の5年、10年で見直すというときにも、修繕でちょっとずつ何か壊れたところを直すというのではコミュニティ拠点にはなり得ないのではないかと思います。それには、やはりこういう地域のこの場

所ですぐいいのかという見直しもあるかもしれませんが、どういう空間が必要で、そして、公民館というのはすごく頼りにされる、特に災害があったり、いろいろなことで避難に使われるということもあって、タフな空間であってほしいし、人が集まってほしい。選挙にしか行かないというのでは、なかなかそこがこれから先、コミュニティの拠点にはなり得ないと思いますので、ぜひ公民館のこれからのコミュニティ拠点とするための改築、改善の方針でこの事業を進めていただきたいなと思います。具体的にどういうふうなというのは、多分個別のことだと思いますけれども、例えば、建築家であっても、そういった使われ方、こういう空間があればこういうことができると思いますよという提案がたくさんの方ができると思います。ですので、ぜひ公民館の在り方については十分、単に改築事業の入札とか、そういうことだけで判断しないで進めていただきたいなという、これは希望でございます。

**【倉林会長】** ありがとうございます。拠点としての公民館、既にあるものを、ハード面、ソフト面、両面からどう機能化していくかということのご提案だと思いますが、この点に関して何かございますか。それでは、事務局の方からよろしくをお願いします。

**【事務局】** ただ今の増田委員さんの方から、公民館としての在り方について、今後の都市マスの位置づけとして、単純に改築してというだけではちょっとというようなお話だったと思います。こちらについては、都市マスの中で地域コミュニティ拠点というところの部分につきましては、今の既存の施設を有効的に活用していくという一つの側面もございまして、公民館を位置づけてはございます。この地域コミュニティ拠点の在り方については各地域ごとにそれぞれのお考えがあるんだと思います。私どもの一つの土地利用の方向性としては、今は公民館を中心というところの部分、やはり公民館の周辺に小学校、中学校等も隣接してございますので、そういった位置づけはさせていただいていますけれども、必ずしもそこである必要性はないんだというふうには思っております。そのところは地域の中でまた議論をさせていただいてという部分はあるかと思っております。

また、施設の在り方につきましては、東金市も公共施設総合管理計画を持ってございます。その中で、今後人口減少を含めまして、施設全体としての在り方というのは将来的に議論していく場があるというふうに理解しています。その中で公民館機能については、そこにさらに地域のコミュニティというものを活性化するような形の中で施設を複合化、集約化というのも一つの視点なのかもしれませんが、そういったものもまた必要なかなというふうに思っています。私ども土地利用としましては、コミュニティの拠点を中心に、極力民間の方々のご協力をいただきながらその周辺に便民の施設ですとか、福祉ですとかというものが少しずつでも集約しながら地域の皆様がそこで地域振興ですとか、にぎわいをというところの部分で図れるような形の中での取り組みを次年度以降やっていきたいというような考え方でございます。よろしくをお願いします。

**【倉林会長】** ほか、いかがでしょうか。相京委員、お願いします。

**【相京委員】** 私は、最初のときにちょっとスマートインターの話をして、その後、ちょっとできるだけ発言しないようにしていたんですが、ずっとお話を聞いていて、意見ではないんですけど、やはり行政の縦割りがずいぶん見えちゃうんですね。私はモノを作るという、そこに住んでいる人の動きって二つ大事で、人のほうの、これから将来どんな地域にしていきたいかなとか、お互いに人間同士、住民同士がどう協力してこれからこの地域をつくっていくとか、これは総合計画だと思うんですけど、もう一つ、ハード面として、やっぱり都市マスってすごく大事だと思っているんですよ。

ですから、ある意味では都市マスを担当している課の方が中心になって、例えば農政課にしても農政課の計画も、それは確かに大事だけれども、むしろまち全体、東金市全体の計画の中においては、時には農政課の方の計画も少し変えてもらわなきゃいけないが出てくると思うんです。そういうような気構えを持って対応していただきたいと思っています。

場合によれば、ちょっとこれは誤解されると困るんだけど、緑豊かな自然だと言うけれども、場合によったら、それは捨てなければいけないことがあると思うんですよ。例えば、東金市全体のまちづくりの中で、ハード面でこの地域については工場関係を、あるいは企業を誘致しなきゃいけないとか、そういう人が住むだけではなくて、あるいは農業だけではなくて、ここに企業だとかを優先的に求めなきゃいけないという場合は、いくら緑豊かな場所であっても、それは捨てなければいけないという勇気も必要かなと思うんです。そういう意味では意見ではないし、希望だったんだけど、もう少し縦割りを越えて、強い意思を持って作っていただきたいと思っています。この計画はすごく私は、これ以上細かい計画になるとまたいろいろな問題が出るかもしれないけれども、この段階においては大変よくまとまっていると思うので、このまま進めていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【倉林会長】 何かもし事務局よりございましたら。

【事務局】 相京委員さんの、縦割りをというお話で、それこそ国の方でも今行政改革という形の中で縦割りの打破というようなお話もございます。私どもも、今回の都市マスの策定に当たりましては、都市マスを作っていく際の方針の中で、庁内がみんなで計画づくりをしていくんだという形で関連する各課、いろいろな方々が長い時間をかけて意見を出し合いまとめてまいりました。今回も総合計画が今議論されている最中でございますけれども、それとこの都市マスタープランの改定を併せて、この二つの方向性を見定めながら、また各個別の計画についても必要に応じて見直しをさせていただきながら、ぜひまた委員の方々にもご説明などをさせていただきたいという形で進めてまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

【倉林会長】 委員の皆様方から色々なご質問、また、ご提案、ご提言もお出しいただきました。ありがとうございます。本日の議事、東金市第2次都市計画マスタープランの地域別構想（素案）につきましては、事務局におかれましては本日、委員の皆様から出されました意見どおり、十分考慮していただきながら、今後の計画策定を進めていただければというふうに思います。委員の皆様におかれましては、慎重審議、ありがとうございます。

以上をもちまして、本日事務局より諮られました議事につきまして、滞りなく終了とさせていただきます。長時間にわたりましてスムーズな進行にご協力をいただき、御礼を申し上げます。私、議長の方を降ろさせていただきます。

【鹿間市長】 終わりに当たりまして、一言、いろいろ私なりの考え方を述べさせていただければと思っております。本日、各委員から様々なご意見をいただきまして、それを参考にして進めていければと思っております。

その中で何点か、私の考えを申し上げますと、上野委員の方から、国土強靱化という話が出てきました。それについては国も今非常に力を入れている施策でございますので、この都市計画を進めている上では十分国土強靱化、それから、災害に強いまちづくりを踏まえて取り組んでいければと思っております。

それからもう1点、地域の連携につきましては、石田委員の方からお話があったと思うんですけども、この前、全員協議会で私の方も言いましたが、2040年には山武郡市

の人口は、東金市が 20%、山武市が 40%、大網が多分 30%減るといような人口予測を総務省の方では出しております。お互いにこれまでと同様に人口が減っていく中で個別に取り組んでいてもなかなかやり切れないこともあると思いますので、その辺は従来の郡とか何とかいう枠組みを越えて地域連携を図っていく必要があるというところがございます。石田委員が言われましたように、当然八街市とも行政区の境を両側でしておりますので、そういったところも連携しなきゃいけないということも十分踏まえていかなければならないと思っております。

昨年度ですか、千葉市が総務省の補助金で地域連携の方の調査をやりました。従来でしたら市原市と四街道、その辺の調査で終わっておったんですけども、やはり千葉市への人口の流入先は茂原、東金が多いものですから、その辺では連携する必要があるので、ぜひ調査の中に茂原市も東金市も入れてくれということで申し込んだ経緯がございます。

それから、3点目ですけども、市街地整備、インフラの整備についてでございます。これは非常に息の長い仕事になります。先ほどもお話がありましたように、都市計画道路、それに付随したインターチェンジ、もろもろのインフラ整備がありますけれども、これは 10 年スパンとか、20 年スパンの時間がかかると思っております。特に市街地の良好な形成を図るとなりますと、それこそ千葉市の駅前の再開発は 30 年、40 年がかりで取り組んでいて、ようやく駅前の、昔ありました千葉銀行の駅前支店等が再開発で手をつけるというようなものですから、それは息の長い、また、財政も非常に関係する事業となりますので、そういったことも一緒に踏まえまして、この都市計画に取り組んでいければなと思っておりますので、よろしく今後ともご尽力のお願いをできればというところと、私の考えとさせていただきます。いろいろと今後もよろしく申し上げます。

【倉林会長】 鹿間市長、ありがとうございました。

それでは、以上をもちましてこの審議会の方を、私の方の役目を終わらせていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

【事務局】 倉林会長をはじめ、委員の皆様には慎重審議、ありがとうございました。

最後になりますが、本日の議事録でございますが、議事録署名人にご署名をいただいた後、委員の皆様にはその写しを送付させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

その他

【事務局】 「その他」といたしまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。

ないようでございますので、事務局より、今年度の都市計画審議会の開催予定についてご案内の方をさせていただきます。今年度 2 回目の審議会でございますが、11 月 6 日、午後 1 時半より開催を予定させていただいております。また後ほど詳細な内容につきましては、実際の議事進行の部分が確定しましたらご案内をさせていただく所存でございます。また、3 回目につきましては、今年度最後、1 月の下旬ごろを想定しておりますが、まだ日時については未定でございます。また詳細が決まり次第ご案内をさせていただく予定で考えております。よろしくお願い申し上げます。

それでは、これにて本日の都市計画審議会を終了とさせていただきます。長時間にわたりましてありがとうございました。

以上をもって、午前 11 時 30 分に閉会となる。